



『痛くない死に方』『夜明けまでバス停で』 高橋伴明監督が安楽死を描く 衝撃の社会派ドラマ



政府承認 安楽死要件

- 一、身体及び精神の耐えられない痛みが続いている。
- 二、現在の医療では回復する見込みがない。及び、代替手段もない。
- 三、現在、安楽死を希望する本人の明確な意思表示が可能。

INTRODUCTION

在宅医として2500人以上の看取りを経験してきた医師で作家の**長尾和宏**による同名小説が原作の映画『安楽死特区』は、近未来の日本で「安楽死法案」が可決され、国家主導で導入された制度のもと、人間の尊厳、生と死、そして愛を問う衝撃の社会派ドラマである。

監督は、『痛くない死に方』、『夜明けまでバス停で』などの**高橋伴明**。脚本は、『野獣死すべし』、『一度も撃ってません』などの**丸山昇一**。名匠の初タッグが本作でようやく叶った。

舞台は今から数年後の日本。欧米に倣って安楽死法案が可決した。国は実験的に「安楽死特区」を設置することに。主人公のカップルは、回復の見込みがない難病を患ったrapper・酒匂章太郎と、彼のパートナーでジャーナリストの藤岡歩。安楽死法に反対のふたりは、特区の実態を内部から告発することを目的に、国家戦略特区「安楽死特区」への入居を決意する。そこでふたりが見たのは、安楽死を決意した人間たちの愛と苦悩。そして医師たちとの対話を通じて、ふたりの心に変化が訪れるが……。

の

章太郎役は、『「桐島です」』の**毎熊克哉**。パートナー・歩役には『夜明けまでバス停で』の**大西礼芳**。特区の実態を告発するために突き進む歩が、章太郎の心境の変化に直面する様は、観る者の心も激しく揺さぶる。

末期がんに苦しむ夫と、夫と心がすれ違う妻を演じたのは、**平田満**と**筒井真理子**、認知症と診断され、死なせて欲しいと願う元漫才師役で**余貴美子**が出演。そして、「安楽死特区」の特命医を演じるのは、**加藤雅也**、**板谷由夏**、**下元史朗**、**奥田瑛二**。歌謡漫才のコンビであり余貴美子の妹役で**友近**、尾形の元妻役で**鈴木砂羽**が出演。また、シンガーソングライターの**gb(ジービー)**が毎熊克哉とラップを披露する。

人生の最期を自ら決断しようとする者と、国から命じられ苦悩しながらも安楽死に導く医師、それを見守る者—— 一体、死とは誰のものなのか？ 制度と人間、理想と現実の狭間で揺れ動く人々の姿を描き、見る者一人ひとりに、重い問いを投げかける。明日、この国で現実にかかるかもしれない世界線を描いた衝撃作。

2026年1月23日(金)より 全国順次公開